

# むさし野

No.26

事務局 〒350-0822 川越市山田912-7 石井方

電話 049-225-2466

E-mail : ishi.mkyr@r8.dion.ne.jp

ホームページ : <http://www.longview.jp/musashino/>

## 大変厳しい！ 生涯教育の道

塩入 基臣（朝霞市）

法政むさし野会の皆様、あけましておめでとうございます。今年も交流の場で交友を深めたり、情報交換をしたり、楽しく勉強会を開いたりして積極的な参加を期待したいと思っております。

さて、最近の大学はどの分野でも情報化の波に押されてパソコンの操作ができない学生は卒業が危ぶまれるといった内容なのですが、当の筆者もご多分に漏れず某大学でパソコンの集中授業の恐怖を体験してきました。それは3日間のスクーリングの出来事でした。3日で「Auto CAD」の操作をおぼえ、2D設計から3Dソリッドモデルを作成するという授業で、私は最初からついていけず、あの禁句の言葉「来年おいで」を連発され、更に私が回りの友人に助けを求めたにも拘らず「誰も教えるな」と止めのくぎをさされました。当然ながら去年から今年にかけて「Auto CAD」を勉強するはめになったのであります。これらの大学通信教育は早大のようにパソコン授業が主流におかれ、私達の体験してきたあの様な面接スクーリングの授業風景は過去のものになるようにしています。日進月歩の科学技術発展の中では一番遅れていると指摘され、大学の2部同様に廃止の憂き目にあった大学通信教育が華麗にも進化をとげたのはそれが社会に必要とされた組織であり、そこに目をつけた各大学が生き残りをかけて大学通信教育を新たに設置したことで理解出来ると思えます。

ところで、私の場合はまだ学生の真只中にいる訳で、今年目標が卒業設計の提出に向けての研究に専念しようと考えていますから正月のめでたい気分もさめやらないままに対策を立て、その後は法政大学の工学部図書館に行って勉強と計画しています。まあ、年齢も加算されていることなので本当は適当に遊んでいるのですが、なにせ授業中は名前を呼ばれなくて「おとうさん」といわれて自分ではそうかなあと思っている次第でありまして、やはりそこは実感しております。そしてもう学部は四度目なので本当の意味で卒業しないと今度はマジに「おじいちゃん」と呼ばれかねないのです。これは誰がいったか一生懸命勉強だという生涯教育でいうところの法政のノリで今までやってこれたことに対する副作用ではないか。しかしながら、呆け対策にはききめがありそうなので大学はやっぱりいいものです。それから友人ができるので二度おいしいです。つまりは大学とはそんなところですよ。



## ビデオ「評決」を見て

第12回会員による勉強会（2006年10月）「裁判員制度」を考えるより

安藤 謹二（熊谷市）

最近の新聞紙上などでにぎやかになった2年後に始まる「裁判員制度」は、新しい国民の義務といわれるので、その模様を想定して制作されたビデオ「評決」を1時間余りにわたって観賞した。なお、ビデオは、最高裁判所が制度普及のために広報用に作成したもので、三角関係のもつれから起きた殺人未遂事件(想定)を、6人の裁判員が関与して評決(判決の為の裁判官・裁判員の協議)するというのでした。

評決で問題になったのは、殺意と量刑(執行猶予か実刑か)の点です。果物ナイフで被害者の後部から背中を1回突き刺したことが殺害に当たるかという事(被告人側は殺意はなかったと主張)ですが、評議の結果は前後の状況などを良く見て殺意を認定し、量刑については、被告人の反省の態度・被害者が処罰を望んでいないことなどを考慮して執行猶予にした。判

## 東京六大学秋季リーグ観戦記



宇佐美 善夫（朝霞市）

2006年9月23日(日)法・慶戦を応援して欲しいと、石井会長から連絡が入り、むさし野会のメンバーと行く事を返事する。

23年ぶりの応援であり、早めに自宅を出る。東上線・JR戦を乗り継ぎ信濃町駅に到着する。歩いて神宮球場三塁側改札入り口に着く。早かったのか、むさし野会のメンバーの姿はなかった。

試合開始11時前には四人のメンバー(竹村・矢田・石井・宇佐美)が揃い入場する。中断席に腰を降ろすともうすでに、法政・慶応の応援合戦は始まっていて、リーダーのもと、女子学生のチアガールも加わり盛り上がっていた。私達も久しぶりに歓声を挙げて応援した。試合は、慶応投手の剛球に打てず、三振11個を記録し、空しく4対0で敗れる。勝負は厳しいが、選手諸君の頑張りが欲しい。



球場を後にし、信濃町駅近くの店に入る。本日の出会いと、健康を祝して、ビールで乾杯する。話は盛り上がり、1時間30分過ぎ、名残を惜しみ、解散する。

翌日からの試合を2勝し、慶応から勝ち点を取ったことを新聞で見て知る。秋季リーグ戦は終われば、四位でBクラスに転落し残念。若さあふれる学生諸君と一緒に応援できた事は、何よりも楽しかった。次回の、春季リーグ戦に期待する。法政健児の健闘を念願する。

おお・法政・我が母校 　　に幸あれ



ビデオ「評決」を見たあとの質疑

決は懲役3年執行猶予5年という事でした。

息を止めるようにして真剣に見ていた会員は、「うーん、この程度のことなら大丈夫だ」と自信ありげに語っていました。しかし、反面俳優がシナリオによる発言だからすらすらと喋っているが、実際になるとちょっと無理ではないかという意見も出ました。

それから、新しい国民の義務

という「裁判員制度」についてですが、毎年9月に各市町村の選挙管理委員会が調整した選挙人名簿の中から、裁判所から通知された員数の裁判員候補者予定者を抽選で選んで、裁判所へ通知する事になっています。(埼玉県はさいたま地方裁判所のみ)裁判所は、予定者の名簿から欠格事由など調べて裁判員候補者として本人に通知を出します。そして、具体的事件があると、その候補者名簿の中から抽選で相当の人員を選んで、裁判員候補者に呼び出しをかけます。この呼び出しに正当な事由なく出頭しないと制裁があるので、義務(本人の意志を問わない2回の抽選で司法へ協力させられること)と言われるものです。そして、裁判員候補者として出頭すると、担当裁判官・検察官・弁護士の立会いによる面接によって、具体的事件を担当する裁判員になる訳です。裁判員の仕事は事件によって異なりますが平均3日間です。

間もなく、さいたま地方裁判所の正面向かって左側に、裁判員制度専用の法廷棟が建ち、4法廷に9人の裁判官・裁判員の席が誕生し、制度実施の準備も完了するでしょう。(そうして見学などもできることになるでしょう)。裁判所が、私達に一步も二歩も近く感じる事になると思います。

### 尾辻紀子さん(川口市)が『幕末外国奉行 田辺太一』を出版

会員の尾辻紀子さん(川口市)が第二作目となる著書『幕末外国奉行 田辺太一』(新人物往来社)を出版されましたのでご紹介いたします。以下はご本人より著書の内容について概述いただいたものです。お近くの図書館等にリクエストをお願いいたします。(事務局記)

\*

太一は幕府儒教者の次男として天保2年(1831)江戸湯島で誕生した。鎖国日本に開国通商を求めてアメリカ、ロシアの黒船が来航して開国。四面海の日本は海防のため海軍伝習所を開校する。太一は推薦入学する。講義はオランダ語で太一は外国語を学習。卒業後は外国方に任命され、アメリカ外交官ハリスと交渉する。小笠原諸島へも異国船が入港するので咸臨丸で巡検隊が派遣され太一も参加した。

開国した日本は横浜港など開校すると輸入超過となり運動が起こり幕府は鎖港使節団をフランスに送る。太一は外国奉行として同行し、ナポレオン三世に「鎖港依頼書」を渡す。慶応2年のパリ万博には徳川昭武一行に同行。慶応3年、大政奉還となり太一は外国奉行を解任される。明治政府は太一の外交経験を評価し岩倉米欧使節団に外交官として参加させる。

## 第13回 勉強会 煮ぼうとうを味わい、深谷の文化を探索する

県北の深谷市を訪れ、名物の郷土料理の由来をたずね、また、深谷の文化財を見学します。最初に、「深谷ネギ」で名高いこの地域の野菜と国産小麦を使った郷土料理「煮ぼうとう」の復権をかかげて、甲州の「ほうとう」との麺類対決を呼びかけるなど最近注目を集めている「武州煮ぼうとう研究会」の小林仲治会長においでいただき、お話をうかがいます。その後は当然、料理をいただきます（「虎ひげ」という店の予定）。

深谷は、埼玉県の偉人・渋沢栄一の故郷であり、生家（下の写真）やその記念館、関連施設、東京駅にも使われた赤レンガ工場など多くの貴重な文化史跡がありますので、そこを巡り、それぞれの場所で説明員の話しを聞きたいと思います。渋沢栄一は“近代日本資本主義の父”とよばれ、多くの近代産業の育成に貢献しました。また、その甥・渋沢元治は日本の近代電気事業の確立に尽くし、日本電気協会では今でも渋沢賞を継続しています。その孫の渋沢敬三は日銀総裁にもなった財界人ですが、民俗学者としても、国立博物館の母体となったといわれる私設博物館を作り、宮本常一ら多くの在野の学者の活動を支えていた人物であることも有名です。

赤レンガの深谷駅で会いましょう！



日時：2007年2月17日（土）12時30分から17時分ころまで

場所：深谷市（12時30分 JR深谷駅前集合）

会費：2000円予定（食事代を含みます）

申込：石井まで（049-225-2466 Eメール：ishi.mkyr@r8.dion.ne.jp）

### ■会員の移動

- ・退会：齊藤 美恵子さん
- ・ 赤間 鉄雄さん（逝去）

#### 【弔辞】

会員の赤間鉄雄さんが11月11日、63歳という若さで逝去されました。病名は大腸癌との事でした。赤間さんは実直な会員で会の催しにもよく参加され。また、会報「むさし野」にも何度か寄稿をしてくださいました。定年後は群馬県中之条町に移住され自然を相手に老後の準備をされていたようです。また、浦和レッズの大ファンで、レッズの試合が当会の催しと重なると「飲み会の夜の部で合流します。」と、サッカー場の興奮をそのまま酒席へ持ち込まれて大いに場を盛り上げてくださった事を思い出します。ここに哀悼の意を表します。

合掌

会長 石井 満（川越市）

#### ◆あしがき◆

赤間鉄雄さんの訃報には本当に驚きました。前日は浦和レッズが優勝を来た日で「あの赤い集団の中に赤間さんはいるのだ」と思ってテレビを見ておりましたら……。前回、お会いしたときに「スローライフの感想を書いていただけませんか」とお願いしたら「もう少しあとで」とおっしゃったのが妙に気がかりでした。

私たちもいつ何が起こるかわかりませんから、毎日を丁寧に生きるしかありません。塩入さんが書いてくださったように「法政の絆」を大切に今年もよろしく願いいたします。

むさし野会のホームページができました。以下のアドレスですので、ぜひご覧ください。ここから勉強会出席のEメールを出すこともできます。

<http://www.longview.jp/musashino/>